キャラクター名
獅子神 優兎（ししがみ ゆうと）

プレイヤー名

シンドローム	キュマイラ キュマイラ	ワークス	UGNエージェントC	カヴァー	不良高校生
オプショナル		年齢	17	性別	男
覚醒	渇望	衝動	闘争	初期侵食率	33 %
出自	父親不在	経験	初恋	邂逅	恩人

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値
肉体	6	0	0			6
感覚	0	0	1			1
精神	0	1	0			1
社会	2	0	0			2

HP	33
行動値	3
(非装備時)	3
戦闘移動	8
全力移動	16

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵	11		射撃			ＲＣ	1		交渉		
回避			知覚			意志	1	1	調達	1	
運転：			芸術：			知識：	2		情報：UGN	1	
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
素手(破壊の爪)	白兵	6r+11	1	(1+8)		攻撃力[Lv+8]
MC:獅子の覚悟（ライオンハート）		4r	1	9		マイナーコンボ/1+2+3/シーン継続/侵蝕値:9+1
MC:獅子の覚悟（ライオンハート）【100】		5r	1	10		マイナーコンボ/1+2+3/シーン継続/侵蝕値:9+1
SC:オレの狩場（プライドエリア）		0		45		セットアップコンボ/4+5+6/味方範囲選択/敵選択対象に攻撃力+45/味方暴走付与/シーン継続/侵蝕値:10

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ

合計装甲：	0	合計回避：	0

所持品	
思い出の一品（押花）	

ロイス

対象	感情(pos)	感情(neg)	タイタス	消費
想い人	P	N		
母親：WH	P 庇護	N 食傷		
ゆーごさん（リヴァイアサン）：PU	P 誠意	N 劣等感		
幼いころー緒に遊んだ少女	P 純愛	N後ろめたさ		
	P	N		
	P	N		
	P	N		

最大財産P: 6	残り財産P： 4

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果：非オーヴァードのエキストラ化								
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果：コスト分のHPで復活								
破壊の爪	1	3	マイナー	至近	自身	自動		
効果：EA(P.59)素手のデータ変更								
完全獣化	2	6	マイナー	至近	自身	自動		
効果：【肉体】判定ダイス+[Lv+2]/シーン継続								
ハンティングスタイル	1	1	マイナー	至近	自身	自動		
効果：戦闘移動/シーンLv回								
ターゲットロック	5	3	セット	視界	単体	自動		
効果：対象への攻撃力+[Lv*3]/シーン継続								
攻性変色	6	3	セット	視界	単体	自動		
効果：5と組み合わせ/攻撃力+[Lv*5]/自身暴走付与								
狩りの統率者	1	4	オート	至近	範囲（選択）	自動		
効果：5の直後/5の効果を対象にも適応/シナリオLv回								
コンセントレイト	3	2	メジャー	-	-	-		
効果：C値-Lv（下限7）								
獣の力	1	2	メジャー	武器	-	白兵		
効果：攻撃+[Lv*2]								
リフレッシュ	1	5	オート	至近	自身	自動		
効果：暴走以外のバステ解除Lv個/シナリオ一回								
体型維持	★							
効果：								
獣の直感	★							
効果：								
効果：								
効果：								

獅子神優兎、UGNエージェント。コードネーム：＜異を狩る兎-ヴァリアントハンター->
よくいる不良学生で学校をさぼったり、喧嘩をしたり、彼なりの青春を過ごしている。
頭が良くなく良くも悪くも素直であり気に入らないやつには噛みついたりする。不良だね。
父親は彼が幼いころに他界しており母子家庭で育った。
根は優しく実は臆病。不良のような振る舞いは己の弱さを隠すため。
過去のある出来事が彼に強さを求めさせ与えた。
＜背景（今日のボエム）＞
幼い頃、臆病だった僕は周りになじめず孤独で独りだった。
母さんは父さんが死んでから笑わなくなった。僕には何もできなかった。僕は弱いから。
ある日公園で「彼女」に出会った。「彼女」は独りの僕に手を差し伸べてくれた。
彼女と遊んでいるととてもこの世界が明るく感じた。僕にとって彼女は太陽だった。
僕は彼女に恋をしてたと思う。でも、臆病な僕に彼女に思いを伝える覚悟はなかった。
力が、強さが欲しかった。

あれからオレは力を手に入れた。見かけだけの強さと共に。
でもこの力があれば大事な人の日常を守れる。それだけで十分だ。
今でも押花を見るとお前のことを思い出す。我ながら女々しいとは思う。
でもしょうがないよな、初恋なんだし、諦めきれないし。
もし、もう一度会えたら、お前に想いを伝えよう。後悔をしないように。